

令和元年6月改訂
 コンクリート構造物品質確保ガイド【ガイド】2019 改訂資料

・コンクリート構造物品質確保ガイド【ガイド】2019 改訂内容

ガイドに示された PDCA サイクルに基づき、ガイド 2018 の改訂を行った。なお、改訂内容は次のとおりである。

(1)本編 p32～p34【施工時に発生する不具合】の記述を改めた。

(2)H30 に提出された「コンクリート施工記録」を追加して、資料1「材料等によるひび割れ抑制対策」検討例を改訂した。

【内容】

材料等によるひび割れ抑制対策の検討は、コンクリート施工記録データベースに格納された最新の記録を用いて行われ、ガイドには、その検討手法として「資料1「材料等によるひび割れ抑制対策」検討例」を掲載している。

今回の改訂では、2018年に提出された最新の「コンクリート施工記録」を追加したうえで再検討を行い、これを改訂した。なお、検討例の結果については、ガイド 2018 と変わっていない。

追加したデータ件数は 200 リフト分であり、このうち橋台たて壁が 29 リフト、橋台胸壁が 8 リフトとなっている。データを追加した橋台たて壁のグラフを図-1、橋台胸壁のグラフを図-2に示す。今回追加データ(図中の赤色プロット)は最大ひび割れ幅が小さい範囲に分布しており、この傾向について今後も注目していく。

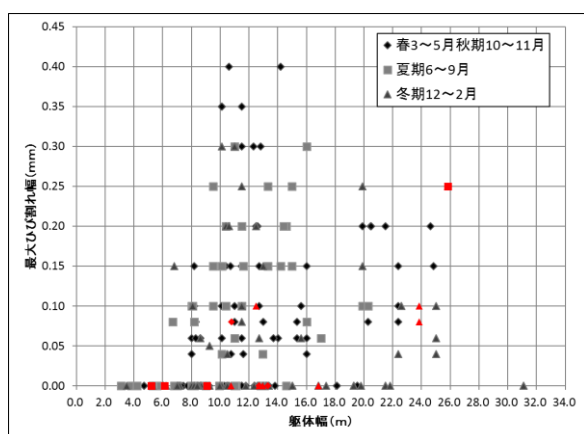


図-1 橋台たて壁における
躯体幅と最大ひび割れ幅の関係

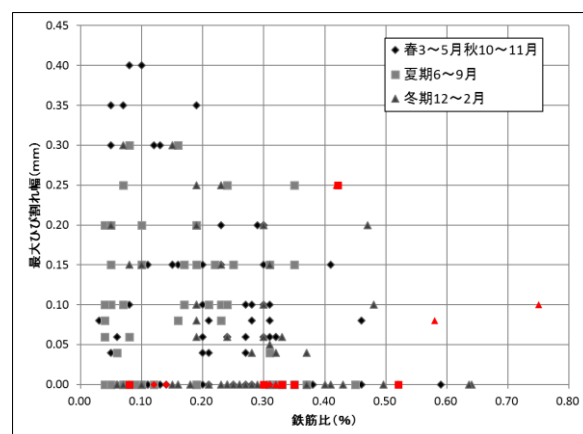


図-2 橋台たて壁における
鉄筋比と最大ひび割れ幅の関係

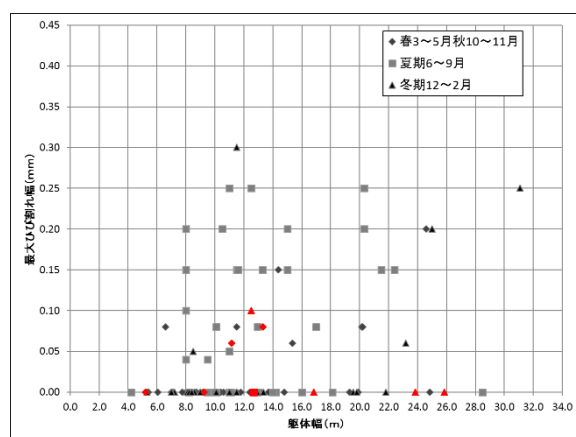


図-3 橋台胸壁における
躯体幅と最大ひび割れ幅の関係

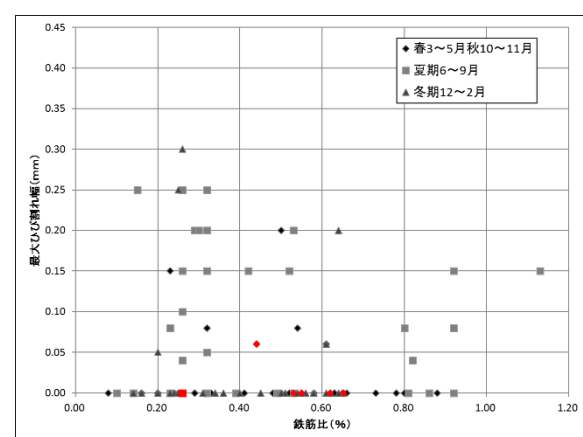


図-4 橋台胸壁における
鉄筋比と最大ひび割れ幅の関係